

7月23日のウクライナ情報

安斎育郎

●ゼレンスキー和平交渉拒否(2022年7月22日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は、Wall Street に、モスクワとの交渉を拒んでいる姿勢の背後にある理由について説明し、ロシアを、「外交の言葉を理解しない飽くなき“カシャロット(マッコウクジラ)”」に例えた。ロシアのウラディミール・プーチン大統領は、7月22日、「もしもゼレンスキー大統領が3月に和平交渉から身を引かなかつたら、両国の紛争は停止していたら」と述べた。ウクライナの指導者は、この発言を「完全な錯乱」と呼び、「ロシアの攻撃の前に、長い間プーチンと話そうとしていたが、彼は電話に出るのが煩わしかった」と述べた。

22 Jul, 2022 20:06 / Home / Russia & FSU

Zelensky refuses peace talks

The Ukrainian president claims Russia will not stop until it gets “smashed”



Ukrainian President Vladimir Zelensky, explaining the reasons behind his country's refusal to negotiate with Moscow, compared Russia to an insatiable “cachalot” who would not understand the language of diplomacy.

In a Friday interview with the Wall Street Journal, Zelensky responded to the recent remarks of his Russian counterpart, Vladimir Putin, who said earlier this week that Russia and Ukraine could have ended their conflict in March if Kiev had not withdrawn from negotiations.

© AP / Ukrainian Presidential Press Office

Calling this statement “total delirium,” the Ukrainian leader said that, prior to Moscow’s offensive, he had been trying to talk to Putin for a long time but he couldn’t be bothered to take a phone call.

※安斎注:伝えられるところでは、ゼレンスキー大統領は2022年3月27日、トルコでの停戦交渉の前に、ロシアの記者らとのオンライン会見を行ない、「関係国による安全保障を条件に NATO 加盟を断念して“中立化”することを受け入れ、核武装も否定する用意がある」と述べたということです。ロシア側が一貫して要求してきた内容を反映しており、ロシア側も和平交渉にもたらされた変化を歓迎したようですが、ロシア側はそれが現職大統領の空約束にならないような法的保証を求めるとし、当然、「関係国による安全保障」とは何かなどが問題になるでしょう。そういう問題は残すにしても、このゼレンスキー大統領の提案は和平に向けた非常に思い切った考えの表明でした。

しかし、それっきりゼレンスキー大統領は和平交渉の場から遠ざかったように思います。なぜなのでしょう？

翌4月になると、トルコのメヴルト・チャヴソグル外務大臣が、「いくつかの NATO 加盟国は“ウクライナ戦争”が続くことを望んでいる(Some NATO states want war in Ukraine to continue)」と述べました。いくつかの国々の筆頭はアメリカでしょう。私は、「あっ、これだ！」と思いました。ゼレンスキーが勝手に停戦に向かうようなことをアメリカが望まず、もう一度ウクライナ軍や NATO 諸国のやる気を再構築するために、あのブチャの惨劇やデニスーヴァによるロシア軍レイプ事件が演出されたのではないかと感じました。

過ぎてしまったことを持ち出して、「もしも…だったら」という議論をするのは余好みではありませんが、この件に関する限り、プーチンの指摘は合理的に思われ、ゼレンスキーの態度変化(変節)は残念でなりません。アメリカのオースティン国防長官は、2022年4月、「ロシアが弱体化することを望んでいる」と言いました。目を突いて暴れ始めたロシア熊が、へとへとに疲れて二度と立ち上がれないようにしたかったのでしょうか、そのためにはウクライナ戦争を長引かせることが不可欠だったということかもしれません。

以来ゼレンスキーは上の新聞記事のように意固地になって和平を拒み、「戦場での勝利のみが解決」とか言って、「武器を!!もっと武器を!!」と西欧社会に絶叫して訴えるようになりました。この暴走英雄男を止めることが出来るのは「アメリカ」自身でしょう。

●ウクライナに残された盗みの道(2022年7月2日)

エネルギー専門家のヴァレンティン・ゼムリャンスキーはウクライナに残された道は、ロシアのトランジット・パイプラインからガスを盗むことだと述べた。

ウクライナに残された道は盗みしかない

2015年7月2日, 21:56



© Fotolia / Iren Moroz

ゼムリャンスキー氏によると、ウクライナはロシア産ガスの購入を拒否した後、欧州からの逆輸入を当てにする可能性があるという。しかし、その資金はどこから得るのか？そんな資金はない。ゼムリャンスキー氏は、残念ながら欧州は、ウクライナ政府が欧州に財政プランを提示しなかったため、ウクライナに資金を与えないことを確認した、と指摘している。ゼムリャンスキー氏は、「私たちは今のところ袋小路に陥ったままだ。お金はない。唯一の解決策は、ガスをトランジットから抜き取ること。乱暴に言えば、盗むということだ」と語った。

●ルガンスク人民共和国のリシチャンスク郊外の住民に、ロシア軍が約5トンの人道支援物資(2022年7月23日)

https://twitter.com/RusEmbassyJ/status/1550786743468986369?s=20&t=ScZ5VBfJVb_T-rhnChozmw

●ドンバスから見た光景:ウクライナは、この地域の人々を下等人間として扱い、それが平和を不可能にした(ヴラディスラフ・ウゴリヌイ、2022年7月22日)

※安齋注:下の文章はロシアのジャーナリストであるヴラディスラフ・ウゴリヌイの記事の一部です。全文読みたい人は(翻訳があまり良くありませんが)下のURLをクリック。

<http://eigokiji.cocolog-nifty.com/blog/2022/07/post-185f77.html>

2月24日に始まったウクライナでの軍事衝突には、ドンバスでの長い戦争が先行していた。8年間、(OHCHR=国連人権高等弁務官事務所によれば)少なくとも14,200人の命を奪い、37,000人以上が負傷し、何十万人もが難民になったり、家が破壊されたりしていた。双方が、良くない平和は、良い戦争より良いと悟って、段階的縮小が2015年2月に実現し、ミンスク合意を基本に、政治的決議を見いだそうと試みた。だが、それはドンバスに平和をもたらさず、その代わりに、前線近くの地域への無秩序な砲撃で悪化し、8年という長さの経済的、法律的封鎖に直面した。

以前裕福だった人々にとって、どちらかと言えば屈辱的な、人道的援助に依存する、爆撃された学校や病院や家の再建や、ウクライナ政府が押しつける経済封鎖に起因する経済不況、年金受給への制限、都市化した前線地域に暮らす人々にとって、負傷したり殺されたりするリスクで、この八年はつらかった。2014年5月、国民投票でドネツクとルガンスク人民共和国の独立に賛成投票した人々が、

この果てしない恐怖で暮らすと、決して想像していたはずはない。

彼らはその恐怖が止むまで、ロシアがドンバスの独立を認め、次に彼らを守り、2014 年以來ウクライナ軍に占領された領域を解放するため派兵した 2022 年 2 月を待たなければならなかった。それは決してたやすいことではなかったが、今ドンバスの人々は、彼らにとって、戦争が間もなく終わることを知っている。両共和国の民兵はできるだけ早い勝利を実現するため、できる限りのことをしている。

●ウクライナ軍、麦畑を砲撃(2022年7月 21 日)

またロシア軍のせいにする準備だろうか？ウクライナ軍にとってそれ以外に何の意味(メリット)があるのだろうか？

<https://odysee.com/@Sputnik%E6%97%A5%E6%9C%AC:b/%E3%82%A6%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%8A%E8%BB%8D%E3%80%81%E9%BA%A6%E7%95%91%E3%81%AB%E7%A0%B2%E6%92%83:5>

●ウクライナ軍、ドネツクを白リン弾砲撃(2022 年 4 月 16 日)

<https://odysee.com/@BFE%E3%80%80Forum:3/%E3%82%A6%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%8A%E8%BB%8D%E3%80%80%E3%80%80%E3%83%89%E3%83%8D%E3%83%84%E3%82%AF%E3%82%92%E7%99%BD%E3%83%AA%E3%83%B3%E5%BC%BE%E7%A0%B2%E6%92%83%E3%80%82:f>

●NHK-BS ウクライナ情勢 2013-2017(2022 年 4 月 27 日)

<https://odysee.com/@Zuuma:7/6Aki0qq2f8NN:9>

※安齋注:2013 年の反政府抗議行動には、参加者に日当が出ていた事実などを伝えています。NHK もこのころは結構まじめに事実を伝えていました。

●ちょっと古いが:ウクライナ人が自国の市民を殺害している。報じない BBC、CNN、FOX は加担している(2022 年 3 月 20 日)

マリウポリの郊外といくつかの地域がウクライナ軍から解放された後に可能となった市民の大量避難は、ウクライナの民族主義者にとって大きな脅威となっています。なぜなら、犠牲者がアゾフのメンバーによる数々の戦争犯罪について現在証言しているからです。マリウポリで人質になっている市民は民族主義者によって殺害される可能性があるため、街の解放は現在、民兵部隊の主要任務となっています。

マリウポリから生き延び、脱出した地元の人々の証言を収めたビデオは、毎日何十本も、DPR の職員によって共有されています。

「彼らは人道的回廊ができると言って、人々を大勢集めています。人々は集まっています。彼らはそこで彼らを破壊し、殺すのです。これはアゾフがやっていることです。他には誰もいません。ロシア軍も、DPR も、誰もいないのです。彼らだけです。青い腕章を付けて」 - と女性が確認しました。

<https://tapnewswire.com/2022/03/ukrainians-murdering-their-own-civilians/>

●イギリスのニュース番組、返答に困り話を遮る司会者(2022年5月15日)

<https://www.youtube.com/watch?v=rLTW8eLWIRE>

テレビ局スカイ・ニュースの番組で、ロシアのドミトリー・ポリャンスキー国連次席大使がゼレンスキー氏のSNSにあったSS隊シンボルの写真について述べようとする、番組司会者はいきなりこれを遮り、次席大使に最後まで話をさせませんでした。

🗨️ ポリャンスキー次席大使は「英国はウクライナに武器を供与しているが、第二次世界大戦初めの数百人に及ぶ英国人捕虜の殺害に第3SS装甲師団(別名：髑髏師団)が関与していた事実を、英国人は気にしないのだろうか。」と尋ねました。

すると英国人司会者は「話し合いをする時間は尽きた。スカイ・ニュースはこの情報を確認できない。」と答えたのです。

●ウクライナ、領土防衛軍兵士を最高70歳まで引き上げ検討(2022年7月25日)

「おそらく、60歳から65歳か70歳まで、少し年齢を引き上げることを提案することになるでしょう」とウクライナ軍参謀総長兼領土防衛軍のセルヒイ・ソブコ副司令官は言った。

●6月27日時点での戦況(Modern War Institute, アンドリュー・ミルバーン)

大隊長は、「5日間というのは、兵士を訓練する時間としては全く不十分だ」と言うと、力なく肩をすくめた。「前線で必要とされているのだから、これで精いっぱいだ」と、彼は険しい顔で答えた。その数日後、私たちが衛生兵のために行っていた別のコースでは、2日目にクラスの半数が姿を消した。「死傷者が出たから」としか説明されなかった。ウクライナの特殊作戦司令部に属する部隊でも、ほとんどの兵士はほとんど訓練を受けていない状態で前線に送り込まれる。ある部隊では、戦闘に入る前に武器を撃ったことのある兵士は、わずか2割と推定された。

5月3日、ウクライナ議会は、ウクライナのホームガードである領土防衛部隊を地域外での戦闘に派遣することを認める法律を可決した。この部隊は地元のボランティアによって運営されており、通常、ほとんど準備を行っていない。そのため、訓練コースの要望が殺到した。ウクライナ西部の都市リヴィウでは、地域防衛のボランティアに新政策を説明するタウンホールミーティングが、パートタイム兵士の夫が戦線に派遣されることを心配した妻たちによって中断された。

しかし、これらの逸話は、戦争が始まった当初からウクライナ人が抱いていた絶え間ない楽観主義を裏切るものであることを物語っている。4カ月にわたる激しい消耗戦の末、ウクライナ軍は人手不足に直面している。

ヴォロディミル・ゼレンスキー大統領は今月初め、現在の戦闘で毎日約60~100人のウクライナ人兵士が死亡し、さらに500人が負傷していると述べた。ニューヨーク・タイムズ紙の最近の記事では、この数字はもっと高く、1日に100~200人が死亡しているという。ベトナム戦争で最も血生臭い時期の一つである1968年のテト攻勢では、ウクライナ軍のほぼ2倍の兵力で、1週間に約200人が死亡しているのである。

しかし、前線からの厳しい報告によれば、ウクライナ人の死傷者数は多く、おそらく長期的には維持できないだろう。「友人の息子が所属する中隊は、通常1個中隊に120人いる兵員が30人しか残

っていないと、あるウクライナ軍幹部は私に言った。

先週は毎日、ロシア軍の砲撃を受けている東部の地域から市民を避難させながら、車で前線に向かうと、反対方向に向かう救急車と次々にすれ違った。その時、通訳が救急車のフロントバンパーに書かれたサインを読み上げた。「300 番台が 3 回」「200 番台が 4 回」と、ウクライナの軍事用語で傷者や死者を表す。週明けには、私たちが見た戦線の一角だけで、その数字の総和が驚異的に大きくなっているように感じられた。

もちろん、ロシア軍はさらに多くの死傷者を出し続けているが、圧倒的に豊富な兵力を持っているため、少なくとも短期的には大きな影響を与えることはないだろう。

また、戦争のニュースが目立たなくなるにつれて、戦争のやり方も大きく変わってきている。ウクライナ軍は、戦争初期の特徴であった性急で単一軸の攻撃から戦略を転換したロシア軍と対峙している。北のイジウムから南のザポリジャーまで、毎日数キロにわたって大規模な砲撃が行われ、キエフと東を結ぶ道路網を守るウクライナの脆弱な稜線に縄が張り巡らされているのだ。

ロシア軍は砲撃の合間に、歩兵を従えた装甲車の小包と車両搭載の重機関銃でウクライナの戦線を探り当てた。その間、ウクライナ軍の方向や補給路に沿って一定間隔で砲弾が発射される。米軍では嫌がらせや妨害射撃と呼ばれる手法だ。また、ロシア軍は偵察の一種である movement to contact を実践している。これは、砲撃によってウクライナ軍の位置を特定し、ロシア軍の大砲が新しい目標を正確に叩くことを可能にするものである。

ロシア軍は現在、ウクライナの国土の 5 分の 1 を占め、開戦時よりもはるかに多くの地域を占領している。プーチン大統領の全体的な目的は依然として不透明だ。勝利宣言の敷居は低く、ドンバス地方全域の併合はほぼ達成されたと思われるが、最近のロシアの自信回復を見ると、それだけでは満足できないかもしれない。

●ウクライナ元議員、「ゼレンスキー氏は西側SPによる暗殺を懸念」(2022年6月6日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は、以前にはロシア軍により自身が暗殺される可能性を主張していましたが、現在では、西側の同盟国やウクライナ軍による暗殺リスクが高まっていると語っているということです。

ファールス通信によりますと、ウクライナ元議員であるイリヤ・キーヴァ氏は、自身のソーシャルメディアページにおいて、「ゼレンスキー氏は昨日、ウクライナ軍に暗殺されることを恐れて、自身の身体警護を強化するように命じた」としました。

さらに、「ウクライナ軍司令部は、ゼレンスキー氏が指揮を執る軍事作戦に効果がなく、その命令が戦場における兵士の戦死やウクライナ軍の敗北につながるかもしれないと感じて、不満を抱いている」と続けました。

この報道によれば、キーヴァ氏はまた、「ゼレンスキー氏は、ウクライナの敗北やその崩壊について話し始めた同盟諸国のシークレットサービスにより暗殺されることを恐れてもいる」と指摘しました。

そのうえで、「西側諸国は、旧ソビエト連邦の域内における武力衝突を終わらせることが自分たちの利益であり、ゼレンスキー氏の物理的排除は、そのような動きを最速化する手段だという結論に達している」と説明しました。

ゼレンスキー大統領は、ウクライナ・ロシア戦争が始まった当初には、「情報に基づけば、私はロシアの第 1 の(暗殺)標的であり、その次には私の家族が標的にされている」と主張していました。